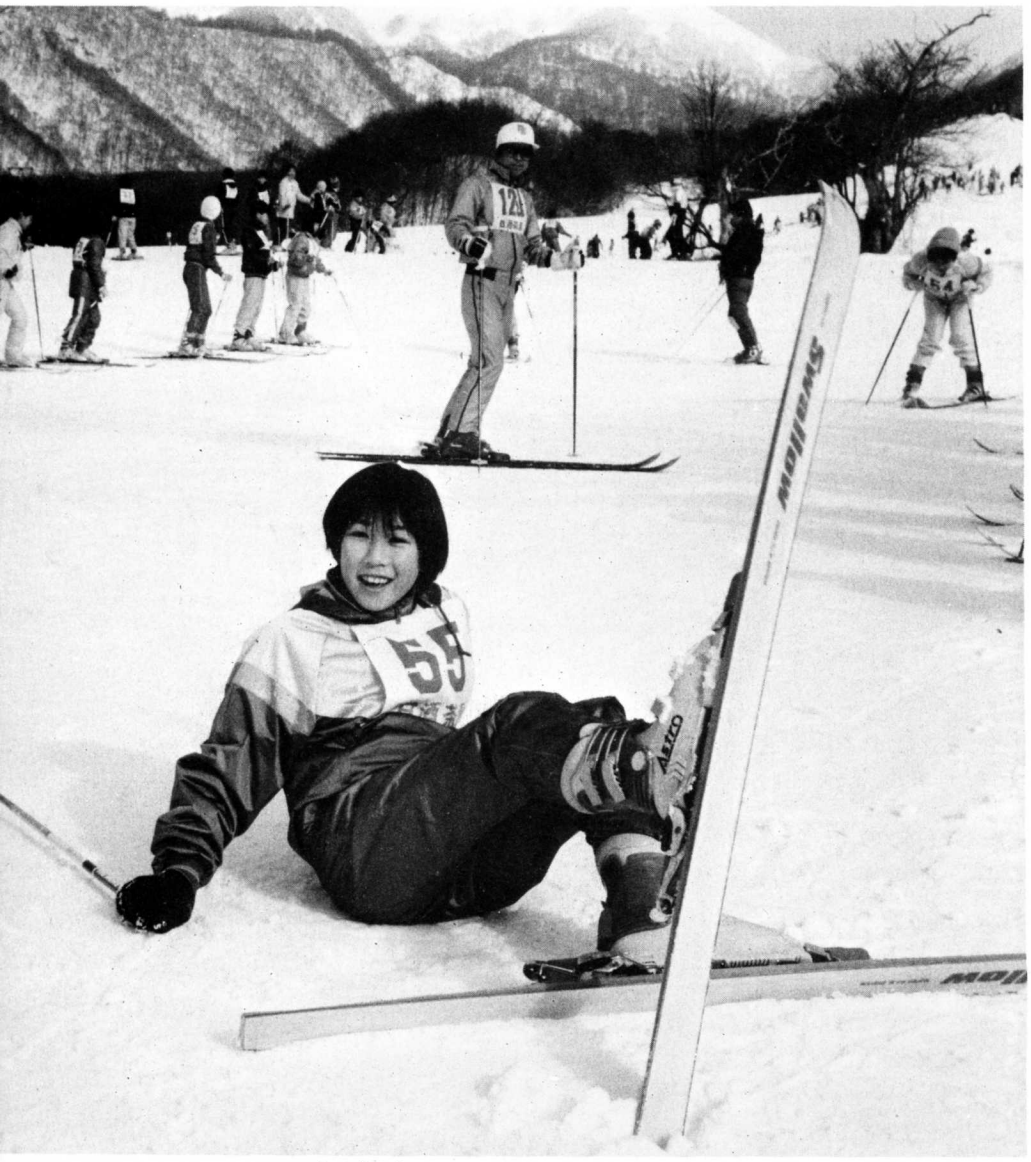
江府町報

第205号

発行者
鳥取県江府町
電話江尾(代)75－2211
編集　総務課
印刷　(有)冨士印刷



ころぶのも楽しい！
海の子供たちがスキー教室

この児童交歓スキー教室は、昭和五十四年に隠岐西ノ島町の姉妹町盟約を結んで以来続けられ今年で八回目。夏になると江府町の子供たちが隠岐で海水浴を楽しんでいます。

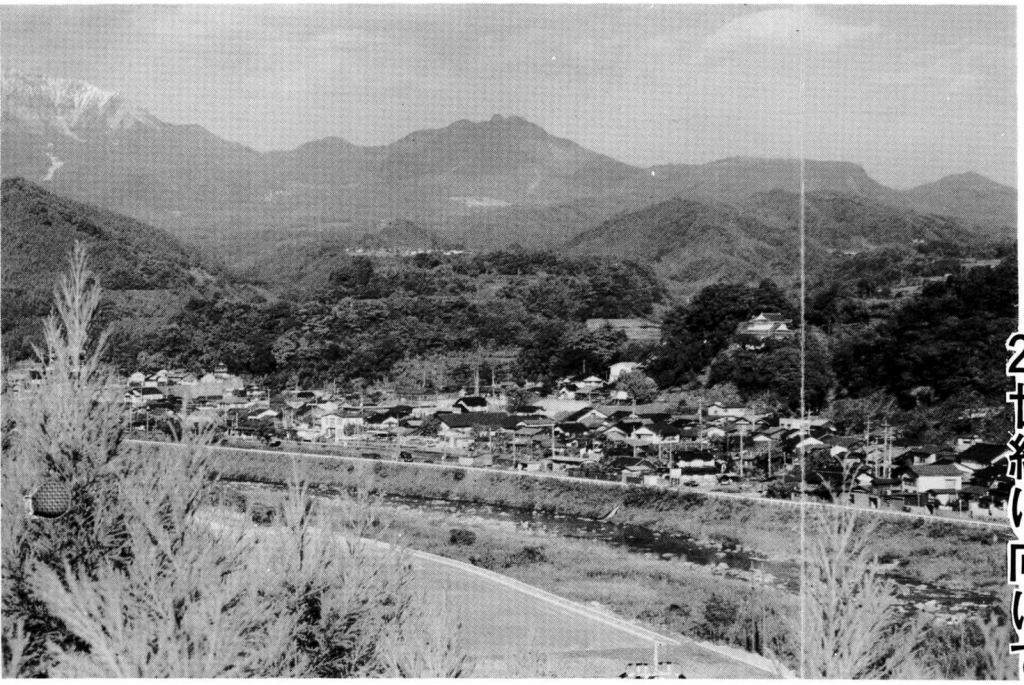
2月5日
「キャー」。
(あーあ。また転んじゃった。)
今、第一日目のスキー教室の真っ最中です。私は今、真っすぐすべって降りる直滑降の練習をしています。でも、転んでばかりでうまくすべれません。
(なんでみんなうまくすべっているのに、私だけうまくできないのかな。)
私はこう思うと、もっとうまくなりたい、自分だけできないのがくやしいと思いました。
坂道を登るのもうまくできない事があります。でも、何とか登ってすべる練習をしました。先生に言われたとおり、スキーをハの字にして、こしを落として、
(いけ。今度こそうまくすべるぞ。)
自分に言い聞かせました。
「シュッ」
ステッキで地面をついてすべり出しました。
(こわいなあ。)
だんだんスピードがついてきます。スピードがだんだん落ちてきて止まりました。そのしゅん間、私はホッとしました。
(うまくすべれた。)
うれしい気持ちがこみ上げてきました。
ねる時、明日はもっとうまくすべろうと思いました。

(隠岐西ノ島町美田小学校
桜井真弓さ感想文から)

江府町の人口

(1月31日現在)

世帯数	1,240世帯
人口	4,842人
(前月比	10人減)
(男)	2,329
(女)	2,513
出生	4
(男)	3
(女)	1
転入	4
(男)	2
(女)	2
転出	14
(男)	8
(女)	6
死亡	4
(男)	2
(女)	2



希望と活力に満ちた魅力ある郷土江府町をめざして

21世紀に向けて第二次江府町総合計画を策定

町の長期的運営方針を定める「第二次江府町総合計画」の基本構想が総合計画審議会の答申に基づいて策定され、十二月町議会定例会で可決されました。

この計画は、二十一世紀に向けて発展していく町の将来を描いたもので、この構想にしたがって五本の柱を基調にした町づくりを進めていくことになりました。

では、総合計画で定めた江府町の方向づけとは、どういうものなのか、「希望に満ちた魅力ある郷土」の実現をめざしてどういう町づくりをしていくのか、その概要をお知らせします。

社会的変化に対応した町づくりを

本町は、昭和五十二年十二月、昭和六十年を目標とした第一次総合計画を策定し、関係機関の協力を得て、諸施策を実施して来ましたが、第一次の計画期間が終了したため町政をとりまく社会的変化と多様化する行政需要に対処していくため、第二次江府町総合計画を策定することになりました。

この計画は、昭和七十年を目標にした「基本構想」と、目標を達成するため、向こう五年間、昭和六十五年までの施策を体系化した「基本計画」さらに、基本計画に定める施策を具体化した「実施計画」とで構成されています。

将来像の実現をめざして

山陰随一の秀峰大山の山ろくと日野川の清流に抱かれ、緑の自然に恵まれた私たちのふるさと江府町は、石器時代の史跡も発掘され、古い歴史と伝統をもつ素朴な民情の町です。

江府町は、この豊かな自然を生かして古くから農業・林業が主体に引き継がれており現在も本町経済の基盤でもあります。

産業や生活様式などの変化に伴う人口の減少は、昭和四十五年をピークに減少率は鈍化したものの、昭和七十年人口は現在からさらに六〇〇人減少することが予想されます。また人口の高齢化もますます進行し、こうした社会的条件の変化や、経済安定成長期という時代背景の中で、健康で生きがいのある高福祉社会の実現、技術革新の時代に対応した農林業の振興、若者の定着化を図るための新産業の育成、自然環境を生かした観光開発などが今後の大きな課題です。

このような主要課題を踏ま

＊郷土江府町の限りない発展に総力を結集

総合計画審議会
会長　加藤清俊さん（杉谷）

美しい自然と環境に恵まれた、この町がそれにふさわしい、心を育て二十一世紀に継なぐ若ものに、そして住民のすべてが活力に満ち、豊かで健康と思いやり、隣人と共に生きる精神を基調とし、みんなで郷土江府町の限りなき発展に総力を結集できる総合計画をと井上町長の諮問の基本構想に対し、委員二十三名が微力ではありましたが全体会議、専門部会それぞれ六回に亘り開催し、慎重に審議いたしました。

審議会では委員各位の意見を充分吸収討議を重ね、専門部部長会議において最終総合計画策定案をまとめ、全体会議に諮り全委員の賛同を得て昨年六月二十七日井上町長に諮問の基本理念に添い、答申致しました。

要はこの基本構想と計画が今後十年間、絵に描いた餅でなく全住民の深い理解の協力を得て着実に実現されることを強く期待するものであります。それには執行責任者が勇気ある決断と実行力を十分発揮し、又きめ細かく、町民の声に耳を傾け、地域にとけ込み全住民のものとしながら施策の設定、実施されることを切望してやみません。

町づくりの概要

え、住民一人一人が豊かでやすらぎのある生活を営むことのできる基盤づくり、環境づくりを行い、「希望と活力に満ちた魅力ある郷土江府町」を将来像とします。

また、このテーマに基づいて▽個性ある町づくり（行財政の強化）▽健康で生きがいのある町づくり（高福祉社会の実現）▽思いやりと心豊かな人づくり（町民資質の向上）▽快適で住みよい町づくり（基礎的条件の整備）▽活力とうるおいのある町づくり（産業の振興）を掲げ、この五本の柱を基調に町づくりを進めます。

個性ある町づくりをめざして

町民の町づくりに対する関心、意欲は年々高まって来ています。住民の行政ニーズに対処できる体制づくり、住民と行政が一体となった町づくりが町政を運営するうえでの基本です。住民と行政との対話を図るためにここでは、▽パネルフォーラム、行政座談会の実施▽広報活動の強化▽イベント開催による地域の活性化を計画として挙げています。

財政面では、国における大幅な歳入欠陥が示すように、かってない厳しさに直面しています。江府町の今後の財政状況は、事業開発等によって大幅な税の増収が見込まれ、自主財源は、安定確立して来ています。一方、歳出では、積極的に進めてきた建設投資による公債費の逐増、人件費等義務的経費の増額が見込まれ▽行政改革の推進▽事務組織、機構の充実と近代化等を図り、増大する財政需要に対処していくこととしています。

地域に活性化を

江府町は、小集落の散在する農山村であり、年間行事、冠婚葬祭をはじめ、日常生活は、集落内の相互扶助で営まれています。三十九集落のコミュニティ活動の推進と地域の活性化を図るため、▽集会施設、広場の整備▽集落の自主財源の確立▽集落経営基金の活用▽コミュニティ活動の機会づくりと情報の提供を目標としています。

また、江府町は、鳥取県西部広域市町村圏に所属しており、拡大する住民の日常生活圏やコミュニティ活動に行政面からも総合的合理的に対処していかなくてはなりません。

関係機関との調整では、単独市町村ではなし得ない高度な行政サービスの提供として▽企業誘致の実現▽福祉文化施設等の整備▽周辺市町村と一体化した観光開発▽消防救急業務の確立等を広域圏施策として進めることにしています。

健康で生きがいのある町づくりをめざして

健康は幸せのバロメーターといわれるように、心身ともに健康であることは、幸せな住民生活の基本です。

人口の高齢化、生活環境の変化によって疾病の内容も変化してきており、町民の健康増進に対する施策も大きな課題です。

▶人生の幸せはまず健康であること（ゲートボールを楽しむお年より）

ここでは、▽健康診断▽健康教育▽町内医療機関の充実▽保健・予防活動の拠点である保健センターの建設などを計画しています。

また、社会福祉の推進については、住民一人ひとりが健康で生きがいのある暮らしのできる行きとどいた高福祉社会の実現をめざして▽老人福祉対策▽健康管理▽生きがい対策▽施設入所者の福祉対策▽身体障害者福祉対策▽児童福祉▽母子父子福祉対策▽低所得者対策▽社会保険▽同和対策などを総合的に進めます。

思いやりと心豊かな人づくりをめざして

未来に向ってはばたく子供たちを健やかに育てるのは、現代に生きる私たちの努めです。

本町には、小学校四校に分校四校、中学校一校がありますが、学校教育では、▽教育環境の整備▽小規模校複式指導及び少人数学級の指導強化▽指導者の資質向上を掲げ、個性豊かな校風の樹立と、ひとりひとりの能力伸長に努力します。

社会教育では、生涯教育の充実に努め、住民の自発的学習の場を提供し、社会教育の拠点である集会施設、中央公民館の建設を推進します。

全国的に青少年の非行化が大きな問題となっています。地域ぐるみでとり組む青少年の健全育成対策、その他文化財の保護管理、お年よりの生きがい対策として高齢者教育同和教育も大きな課題として掲げております。

社会体育では、江府町総合運動公園を拠点とし、子供からお年よりまで幅広く楽しめる住民総スポーツの振興に努めます。

*10年先を見越した特産品開発を

総合計画審議会委員
堀田典子さん（本町一丁目）

働く農村婦人の一員として江府町総合計画審議会の仲間に入れていただき、いろいろ勉強させていただきました。

会合に出席するたびに感じたことですが、年々過疎化の進む江府町を活性化し、発展させるために行政の方々は、こんなに努力して下さっているのかと、大変心強く感じました。

任期を終えるに当り、最近の情勢から次のことを今後にお願いしたいと思います。

計画にもありますように、江府町の産業基盤は米作り農業に有ると思います。今世界の情勢は、日本に対し、農産物自由化への圧力が年ごとに強まっています。

先日も東京の有名デパートでカルフォニア米の試食会が開かれました。安くて味の良い米に参加者の中から食管制度見直しの声も多数聞かれたようです。

生活環境の整備や町づくりは、順次計画通り進めていただきたいと思いますが、中でも農業の振興は早急に取り組む必要があります。

民間企業では、十年先に必要な商品の開発に取り組んでいます。江府町の農産物として関西市場で人気の高い白ネギ他の産物も高原大根のように連作障害や他地域との競合による値くずれが心配されます。今後の課題として町や県単位でなく全国的な見地に立って地域産業としての農産物育成に急がれる時代です。

江府町の農業政策も10年先を見越した特産物開発の必要性を感じるのは私だけでしょうか。

活力と潤いのある町づくりをめざして

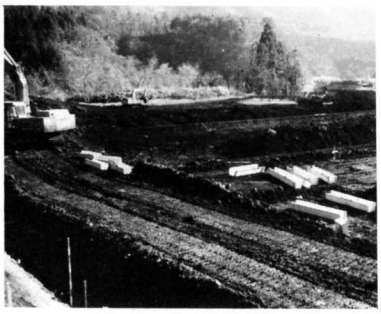
快適で住みよい町づくりをめざして

山地、斜面が多く集落の散在する江府町では、緑の自然環境を破壊されることなく、地域的な連帯感で結ばれた便利な生活を送るための施策は不可欠のものです。

快適な環境づくりとして▽住宅対策▽上水道対策▽下水道の検討▽廃棄物処理対策町民の利便増進対策として▽交通網の整備▽交通、通信対策を掲げています。

複雑多様化する生活様式とともに不時災害も様々です。

住民の生命・財産を守り、安心して暮らしていける町づくりのため、国土保全対策として▽河川整備▽砂防事業の推進。防災対策では、▽非常災害時における応急体制▽地域の自主防災組織の強化▽情報網の確立などを目標にしています。



▶農業の振興にかかせないほ場整備。ほ場整備達成率は、現在二十七パーセント。（栗尾地内で進むほ場整備工事）

農林業は、古くから本町の基幹産業として米作を中心とした耕種農業が行われてきました。山林・原野が町の八十四パーセを占める本町では、農林業の近代化、合理化を推進するため多くの土地改良事業が必要です。豊富な資源を生かした江府町の農業は、商工業観光分野面の産業振興対策にかかせないものがあり、農道かんがい排水、ほ場整備、畑地造成の基盤整備、農地の利用増進施策を積極的に推進します。

商工業については、いづれとも零細な企業がほとんどで企業の不足は、若年層の都市流出による過疎の一因となっています。

既存企業の育成振興を図るとともに、企業誘致の検討が急がれるところです。

また、観光面については、観光に対する人々のニーズの変化に対応した観光開発を図ります。奥大山の国民宿舎、鏡ケ成国民休暇村を拠点として、スキー場、散さく道、自然休養村などの施設を充実させ、都市観光から自然観光へ、見る観光から行う観光へ、団体からグループへと移行する現在の観光ニーズに対処します。

また、新しくとり入れた電源地域産業育成事業では、「江府町の総合的な産業育成ビジョン」を策定し、具体的に公共施設への入り込み客誘致、俣野川発電所ダム湖周辺の整備と開発、特産品と土産品の開発を柱とした基幹産業の振興を図ることを目的にしています。この産業育成事業は、中国横断自動車道の開通、泉源開発下蚊屋農用ダムとあわせ町の経済の発展、活性化に向けての特定課題として取り組むことにしています。

▶江府町の主産業である農業。農業の振興も町の産業対策の大きな課題となっている。（だいこんにつぐ特産品として六十一年度から栽培されている夏秋トマト）

◇　◇　◇

総合計画とは、土地利用、産業の振興、教育文化、福祉生活基盤整備などのすべての分野において、町が実施していく施策を定めるもので、町政を運営していくうえでの基本となるものです。

今後、この計画の逐行にあたっては、行政と町民のみなさんが一体となってより良いふるさとづくりを進めます。

三〇〇人に聞きました
―意向調査アンケート集計―

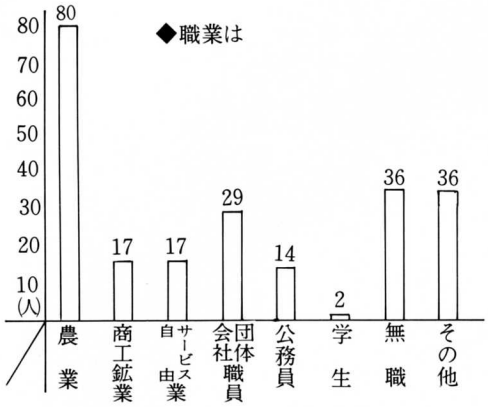
町では、町民の意見を、第二次総合計画に生かすために無作為抽出で三〇〇人のみなさんを対象に、意向調査アンケートを行いました。

現在の江府町をどう考え、町の将来の町づくりをどうしたらよいのか、皆さんの声をグラフに集計しましたのでお知らせします。

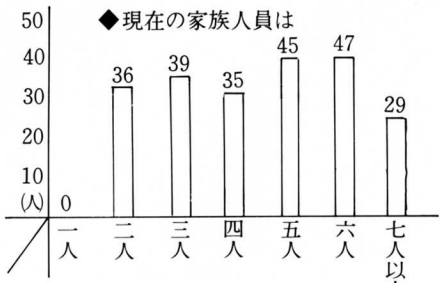
（回収は二三一人、回収率は七七％です）

回答した人の状況は

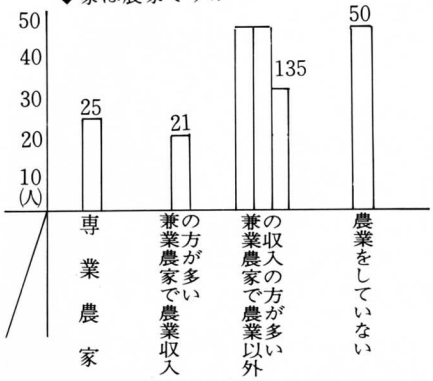
◆職業は



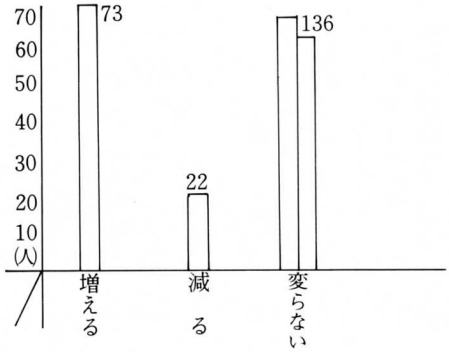
◆現在の家族人員は



◆家は農家ですか

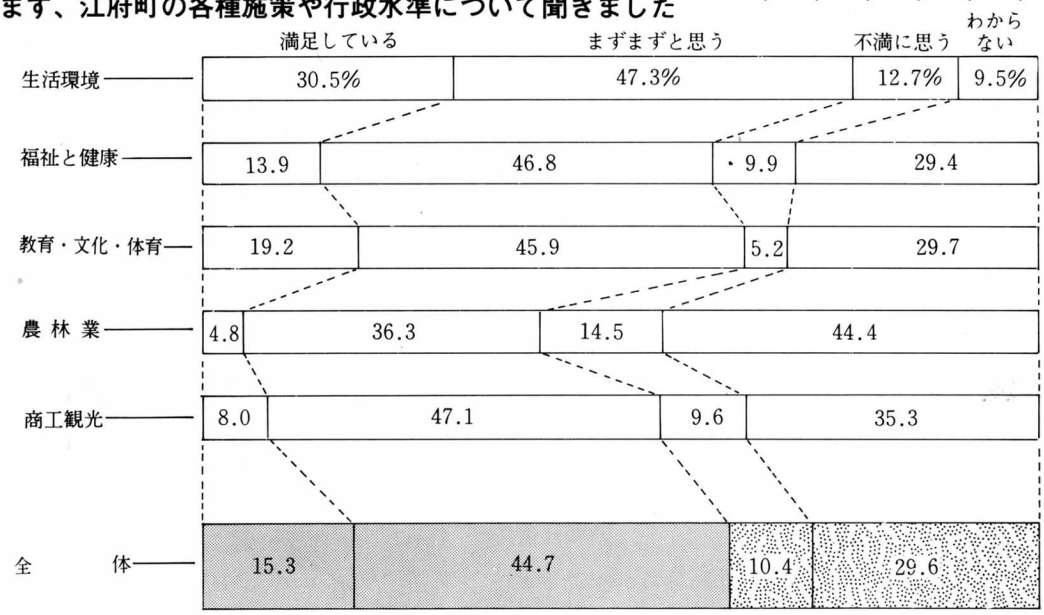


◆今後5年間位のうちに人数が増える見込みですか減る見込みですか。



意識調査の部

□まず、江府町の各種施策や行政水準について聞きました



現行の行政施策「満足している」が60パーセント

現在の町の行っている各種施策に対して、「満足している」、「まずまずと思う」と答えた人は、全体の六〇パーセントで生活環境や福祉・教育面等では大半が満足しており、逆に「不満に思う」「わからない」と答えた人は四〇パーセントでした。

では、これから生活環境、福祉と健康、教育、文化、体育、農林業、商工観光のそれぞれの分野について、住民のみなさんが、力を入れてほしい施策とはどんなものなのかまた具体的にどんな意見が多いのかあげてみたいと思います。

＊もっと自分の町に関心を

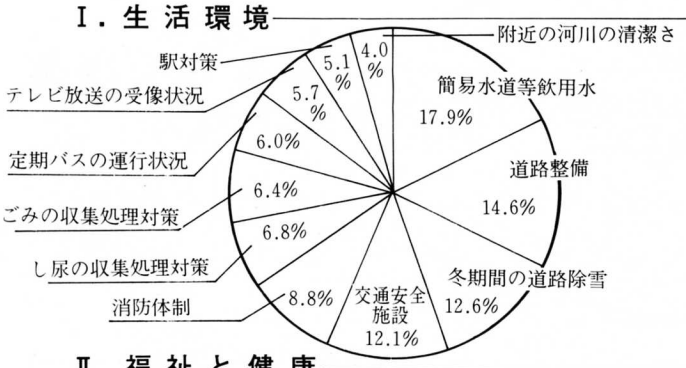
総合計画審議会委員
加藤誉正さん（池ノ内）

昭和六十年代の江府町の経済、社会、文化、各方面にわたる施策の方向を策定する総合計画審議会に青年の代表として農協青年部、商工会青年部の代表の方とメンバーの一人に加えていただきましたことを非常に光栄に思います。しかしその反面委員に課せられた役割を考えるとその重大さを、つくづく感じました。

審議委員として総合計画を審議する過程でいろいろと思ったことがあります。それは私も含めた大部分の若者は、自分の住んでいる町のことを知りたがらない、あまり知っていない、そのため町の現状及び将来について考えることができないでいると思います。

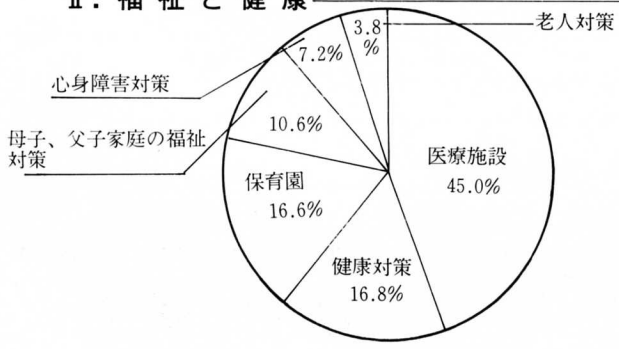
私は今二十六歳、平均寿命まで生きたと仮定するとあと五十年位は江府町で生活すると思います。これを契機に江府町を自分の町として考え、そして認識を深め、町のことを今以上に知り、若者が住んでみたくなるような町、町民皆んなが住みよくなるような町づくりに少しでも貢献できればと思っています。

Ⅰ．生活環境



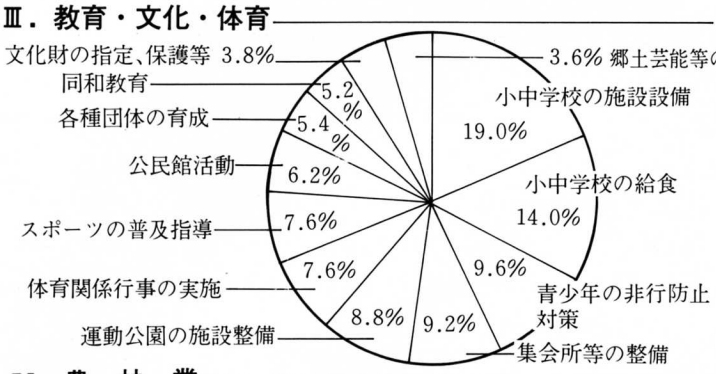
- ▷水道管理体制の一本化
- ▷集落内道路の整備
- ▷集落内道路通学路の除雪
- ▷カーブミラーの設置
- ▷防火水槽の設置・増設

Ⅱ．福祉と健康



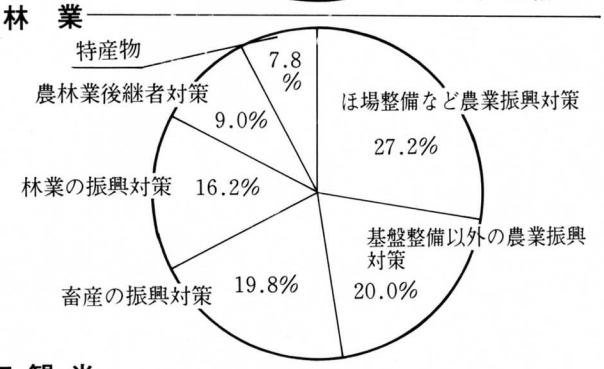
- ▷総合病院の設置
- ▷老人健康対策と体力づくりの場づくり
- ▷保育園の増設
- ▷老人の生きがい対策
- ▷児童遊園地等の設置

Ⅲ．教育・文化・体育



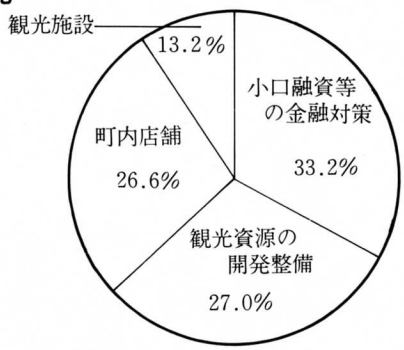
▷老朽校舎の改築
▷米食回数の検討
▷地区集会所の設置
▷公的施設の開放
▷女性や主婦の参加できるスポーツ大会の実施

Ⅳ．農林業



▷小規模団地のほ場整備
畜産の補助対策
▷農業後継者の育成
▷林道の整備
▷特産品の開発とＰＲ

Ⅴ．商工観光



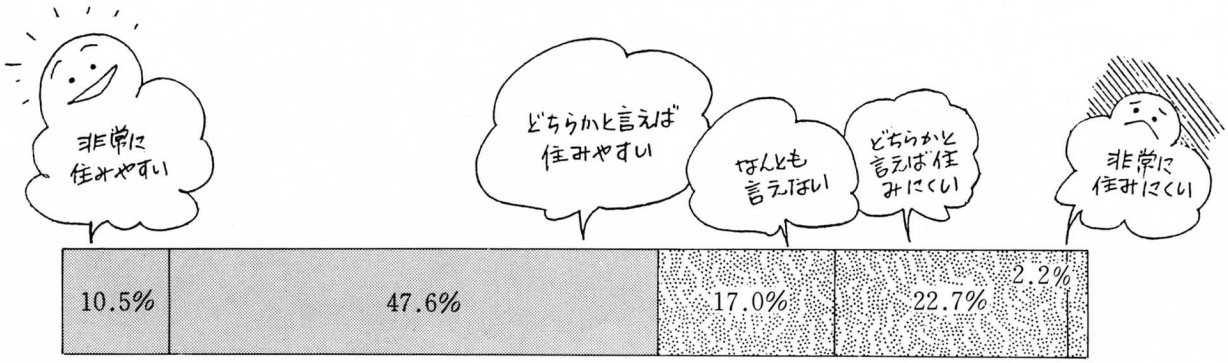
▷小口融資限度額の引上げ
▷大型店舗の導入
▷観光資源、施設の活用
▷ダム湖周辺観光に期待
▷就業機会の増大

アンケート調査の部

「住みよい町」と答えた人58.1パーセント

江府町の住みやすさについては「非常に住みやすい」どちらかといえば住みやすいと答えた人が58.1パーセントで半数以上が住みやすいと感じています。

住みやすい理由としては、「公害がなく自然が美しい」がトップ。「住みにくい」と答えた人の理由では、「適当な働き場所がない」が26.7パーセントで最も多く、次いで「医療機関が少なく不安」が20.5パーセント「不合理な因習や古い人間関係がある」が16.4パーセントとなっています。



企業誘致で活気ある町づくりを希望

町の将来は、どんな町づくりが望ましいか、5項目の中から1つづつ選んでもらいました。

一番望まれているのは、「農業と工業の町」で全体の40.6パーセントが、企業誘致によって就業の場が増えることを期待しています。次いで「観光の町」が19.2パーセント、「住宅の町」16.7パーセント、「農林業の町」が15.2パーセント、「文教の町」6.4パーセント、その他1.9パーセントとなっています。

特に20代の農業振興に対する期待は1.8パーセントと低く、若い世代の農業ばなれがうかがえます。

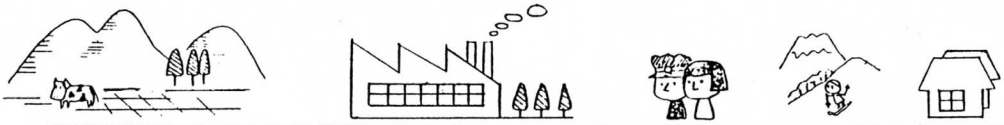
農林業の町
農林業の振興をはかる

農業と工業の町
企業誘致をはかり、町内に就業の場を確保する

文教の町
文教施設、教育機関の整備

観光の町
美しい自然と観光施設の整備をはかる

住宅の町
住宅団地を造成して住環境の整備



	農林業の町	農業と工業の町	文教の町	観光の町	住宅の町	その他
全体	15.2%	40.6%	6.4%	19.2%	16.7%	1.9%
20代	1.8	44.6	8.9	28.6	16.1	
30	13.4	37.4	10.4	13.4	22.4	3
40	19.5	40.2	3.9	16.9	18.2	1.3
50	20.5	46.4	3.6	16.1	10.7	2.7
60	21.0	34.5	5.0	21.0	16.0	2.5

町づくりにひとこと

芦立喜明さん
本町四丁目
(53歳)

まず、人口が増えなければ、町の活性化にならないと思う。商業振興、産業振興のためにも企業誘致・住宅団地などの大型の事業が今一番必要な気がします。

◇

今、農業だけでは、なかなか生活ができないため、若い人の農業ばなれが目立ちます。ほ場整備などでもっと農業が近代的になり、勤めながらでも若い世代が地域にのこってほしいです。

◇

松本幸子さん
宮市原
(38歳)

二児の父親です。もう少し近いところに保育園があればいいと思います。

遊園地などもう地域にあっていい時代ですね。

◇

奥田篤志さん
柿　原
(35歳)

町長の行政報告

（1月町議会臨時会から）

総務

一月十三日、県庁で電源地域産業育成支援事業検討委員会を開催、町、県、各種団体交通機関等の委員十七名により、産業育成ビジョン作成のための検討会を行いました。

検討委員会のメンバーは、次の方々です。（敬称略）

道上正規（鳥取大学教授）山根康雄（県企画部長）、堺宣道（県衛生環境部長）、北浦勉（県農林水産部長）、石黒光照（県土木部長）、三木公（商工労働部長）、影山一亮（町農協組合長）、宮本知衛（町森林組合専務）、伊達教行・堀田典子（農業後継者）、白石秀之（町商工会長）、伊達信夫（国民休暇村）、高木勇（日ノ丸バス米子支店長）、前田煦典（交通公社米子支店長）、浜本博（町議会議長）、井上健治（町長）、村岡鹿次（コンサルタント）

▶県庁で開かれた支援事業検討会

民生

地域住民健康管理電算事業で購入するパーソナルコンピューター及びプログラムの契約を行いました。購入業者は、松本システム㈱・米子市で、金額は、三三〇万円です。

●一月町議会臨時会●

一月二十三日、開かれた町議会定例会で次の事項が議決されました。

▽江府町職員の給与に関する条例の一部改正

本案は、人勧給与改定に基づく国の指定職俸給表の改定に伴い、寒冷地手当の最高限度額を改定するものです。

▽分収契約の締結

昭和六十二年度に、江府町大字俣野字岩谷山下モ平上ミ九四四番二〇他三筆の神奈川財産区所有地を、鳥取県造林公社と分収契約を締結することについて議会の議決を得るものです。

農林

六十二年度から転作制度が改められ水田農業確立対策がスタートします。

これは、水田利用再編対策（昭和五十三～六十一年）にかわるもので、稲作転作により作物の生産性の向上、輪作農法の確立を図り、水田の高度利用と需用に応じた生産を推進するものです。

このたび、県から町へ昭和六十二年度転作面積及び米売渡限度数量の配分が行われ、江府町は、一三三・六ヘクに内定しました。

62年度転作面積の配分

	62年	61年	前年対比	62年配分率
町	ha 133.6	(106.0) 102.9	(126.0%) 129.8	% 25.0
県	8,010	6,380	125.5	31.0
国	77万ha	60万ha	128.3	27.8

町長日誌

＊1月

5日(月) 仕事始め、町商工会役員、中国電力俣野川発電所建設所長来庁

6日(火) 消防出初式、議会常任委員会、大山山ろく開拓建設事務所長来庁

7日(水) 下蚊屋農用ダム協議、大山山ろく開拓建設事務所長・大山農地開発局局長来庁、町内弔問

8日(木) 転作打合せ会、天神ばやし太鼓出初式

9日(金) 中国電力倉吉営業所長来庁

10日(土) 西部町村会、支援事業調査会

11日(日) 新年名刺交換会

12日(月) 新春マラソン大会、江尾区自衛消防隊出初式

農業委員会、商工会

江府町では「江府町水田確立対策審議会」を設置して協議を行い、水田農業確立対策の基本方針を次のとおり決定しました。

転作目標面積等の配分方法は、原則として農家総て一律配分とすることとし、部落単位の面積配分は、部落内の話し合いで個人配分とすることとします。米売渡限度数の配分方法では、保育米は、家族一人一二〇キロとし、配分の基礎となる数値は、各部落の平均反収が基となります。限度数量が余れば転作一〇〇パーセント達成部落に配分されます。

また、これまでの公共事業用地の転作控除の取扱いは六十年限りとします。

転作奨励作物は、白ネギ、ブロッコリー、大豆、飼料、水稲品種は、ヤマホウシ、コシヒカリ、オトメモチの良質米栽培の指導を行い、水稲品種の統一化を図ることとしています。

転作実施面積が未達成の部落については、次年度の転作等目標面積は、未達成相当分を加算、米売渡限度数量についても次年度限度数量が減じて配分されます。

転作目標面積配分達成については、農家、区長、農事組合長、関係団体の協力を得て推進いたします。

▶61年度転作の現地確認（池ノ内地内）

一二月二十九日、三十日の降雪で、川筋地区、柿原、宮市、俣野地区を中心に、十五～二十年生の造林に被害が発生しました。

被害面積は、約十五ヘクタール、うち復旧植栽の必要なものは七ヘクタールとなっています。

教育

江尾小学校柿原季節間分校が一月九日から柿原公民館で始まりました。

通学の不便は冬期間だけ開かれるこの季節間分校は、県内でも一つだけ。

今年は、五人の子供たちと先生二人が、家庭的な雰囲気で三月九日までの楽しい二ヶ月間を過ごします。

▶被害を受けた造林（半ノ上地内）

職員の異動

〈新採用〉

○11月1日付

農林課奥大山自然休養村管理センター係

主事補　桑原　巧

○1月1日付

農林課農林係

主事補　池田健一

総務課企画財政係

主事補　松原俊二

民生課福祉係

主事補　日野尾泰司

子供の国保育園

保　母　車　明美

○2月1日付

建設課建設係

主事補　小林健治

13日(火)　役員懇談会、町内弔問

14日(水)　支援事業検討会議（県庁）、例月監査、中電技術コンサルタント所長来庁

15日(木)　西成防火水槽完成式、県造林課長来庁

16日(金)　成人式並びに高齢者顕彰式

17日(土)　道路公団懇談会、日野町弔問

18日(日)　転作会議

19日(月)　町農協婦人大会

20日(火)　水田農業確立対策審議会、町少年剣道役員来庁

21日(水)　西部広域管理会、町内弔問

22日(木)　土曜会

23日(金)　民生委員会、中国電力交通防犯協力会、水田農業確立審議会答申

24日(土)　町議会臨時会

26日(月)　在　勤

27日(火)～31日(土)　支援事業検討会、本町五丁目役員、大山山ろく開拓建設事務所長来庁

昭和六十二年度予算査定（甘酒茶屋）

わだい

徳岡たかさん100歳

成人式にあわせて高齢者顕彰式

▲人間町宝福寿賞を受賞された徳岡たかさん　病気もされず元気な毎日を送っておられます。

一月十五日、恒例の高齢者顕彰式が成人式に引き続き、土井之内会館で開かれました。

今年は、本町四丁目の徳岡たかさんが数え年一〇〇歳で人間町宝福寿賞、宮市の長岡かめよさんが九十九歳で人間町宝白寿賞をむかえられ、また、本町四丁目の住田米太郎さん、洲河崎の浦部弥四郎さんの二組のご夫婦がそろって高齢者顕彰を受けられるなどよろこびが重なりました。

式典では新成人四十二名が参列するなか井上町長が「温かい人の心が忘れられようとする現象に対して私たちは人間尊重を基本理念に老若お互いがそれぞれの世代を理解しあうことが大切です。

この精神を基調としたこの顕彰式は、人生最高の幸せである長寿と健康をたたえるだけでなく、長寿が日頃のご家族の尽くされる孝養の賜であることに敬意を表し、これを顕彰するものです」とあいさつ新しく四名を加えた十七名の受彰者に記念品とそれぞれの家族へ感状、高齢者介護年手当金を贈りました。

受賞者は、次の方々です。

（人間町宝福寿賞）

徳岡　たか さん（100歳）　本　四　徳岡静子さん母

（人間町宝白寿賞）

長岡かめよ さん（99歳）　宮　市　長岡康弘さん祖母

（高齢者顕彰受彰）

水下すみよ さん（92歳）　久　連　水下　博さん母

浦部　くま さん（92歳）　洲河崎　浦部秀人さん母

住田ひさよ さん（92歳）　本　四　住田美智恵さん母

加藤たかよ さん（92歳）　池の内　加藤公三さん母

（高齢者名誉賞受賞）

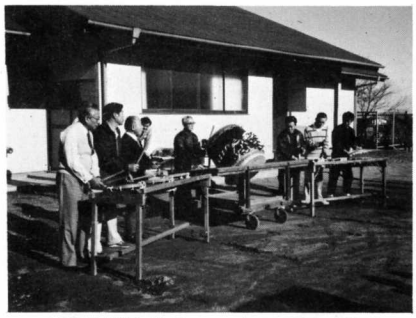
野田とみよ さん（97歳）　大河原　野田正博さん母

篠田　佐一 さん（95歳）　小江尾

天神ばやし太鼓

常陸太田市でおさらい会

2月13日から16日の4日間、町天神ばやし太鼓保存会は、天神ばやし太鼓の本場常陸太田市を訪問、伝授した技の披露と、更に技を研くための復習を行いました。



▲天神林町集落センターの前で練習

全国都市（まち）と村（むら）の交流大会がきっかけとなって茨城県常陸太田市に古くから伝えられている天神ばやし太鼓を修得するために、町役場の職員、町内の主な機関の代表の人達十一名と雪路をバスで出発したのは一昨年の二月中旬のことでした。

翌日の午前十一時頃、市役所で市長にお目にかかった後、天神林町の集会所に案内を受け、天神ばやし保存会の十三名に歓迎の催しや相互の紹介が行われ、いよいよ太鼓の実技指導を受けることになりました。

最初は、勝手の違った太鼓の調子に、神社でのお神楽の癖が邪魔をして戸惑うばかりで、はたして短期間に修得できるものかと不安でしたが、少しづつ調子に乗り、教える側も教わる我

篠田玄正さん父
土井垣秋子さん（94歳）宮ノ前
土井垣一郎さん母
三輪　永治さん（94歳）下安井
三輪　操さん父
新見　まつさん（93歳）吉　原
新見昭三さん母

住田米太郎さん（93歳）本　四
住田美智恵さん父
小椋和加恵さん（93歳）下蚊屋
小椋　清さん養母
浦部弥四郎さん（93歳）洲河崎
浦部秀人さん父
松本　榮作さん（93歳）宮市原

松本　實さん父
久木　千代さん（93歳）下安井
久木　厚さん祖母
中村榮蔵さん（93歳）下安井
中村眞佐雄さん父

＊親子で体力づくり---明倫小学校

▲お父さんの方が緊張気味？

２月15日、明倫小学校（南葉清校長）で、ＰＴＡ主催の親子卓球大会が開かれ、親子ダブルスに熱戦がくりひろげられました。

親の働く姿を見ることの少ない現代の子供たちにとって家庭教育の在り方が大きな問題となっています。

親子でともに汗を流し、家庭では見られないお父さんお母さんの姿をまた家では見られない子供たちの一生懸命の姿を知り、お互い理解を深めてもらおうと、明倫小学校では、親子卓球大会をはじめ親子読書、親子スキーなど親子ふれあい、交流の機会づくりを行っています。

＊奥大山スキー場でそり遊び---子供の国保育園

▲そり遊びに大よろこびのチビッコたち

子供の国保育園では、２月24日、奥大山スキー場でソリ遊びを楽しみました。

今年は暖冬で雪が少ないため、保育園でも雪遊びがあまりできません。天気もよく久しぶりの雪遊びに、子供たちは、ぶつかったりころんだりしながら、広いゲレンデいっぱい元気にとびまわっていました。

天神ばやし太鼓研修報告

安江久夫さん
（洲河崎）

々も、双方に興味も出はじめ、最終日には、どうにかひと通りの基礎は打てる程になりました。

あれから丁度二年、再び常陸太田市を訪れることになったのは、その後の技を披露し、評価を受けることと、技を伝授を受けた儀礼のためで、二年前の天神林町の集会所の前庭、出迎えの保存会の面々に言い知れない懐しさを覚えたのは自分一人だけではなかったと思います。その後、練習で太鼓の技を評価していただくに及んでは、少し堅くなった感じはありましたが保存会の好評、かっさいを得ましたのでひと通り面目は果たした次第です。

天神ばやしは、あくまで元祖は常陸太田市で、それの分家として発展させ各種行事にも組み入れ、永く継承して行きたいという井上町長の願望にそって、我々ももっぱら技を研き、町民から親しまれる伯耆天神ばやし太鼓に仕上げ町民の皆さんに広くこの太鼓が広まり行くことを念願するものです。

天神ばやし保存会のみなさんには、期間中、手とり足とり、繰り返し、終始笑顔で、ていねいに指導に当っていただき、この地方の民情の豊かさ、心のおおらかさには深く感じ入り、この点も大いに見習うべきだと語り合いました。

納期限までに国民年金の保険料を納めましょう

国民年金

国民年金の保険料を納期限までに納めないと、いろいろな不都合がおきることをご存じですか。

そのひとつは、老後の生活を支える重要な柱である老齢基礎年金を受けることができなくなることです。

また、事故や病気によって、障害者となったり、妻子を残して死んでしまったりした場合でも、障害基礎年金や遺族基礎年金が支給されないことがありますからご注意を！

さらに、昨年から実施された新年金制度では「基礎年金制度」が導入され、基礎年金の給付に必要な費用は、各公的年金制度の被保険者全体の頭割りで負担することになりました。

つまり、現在年金を受給している世代を、現在の被保険者全体で公平に支えることになったわけで、国民年金の保険料の納付を怠った場合には、あなたに不利益が及ぶことに加えて、他の被保険者にも迷惑をかけることになるわけです。

国民年金は、国民の一人一人がみんなで支える年金制度です。保険料は納期限までに必ず納めましょう。

62年度 児童手当の支給はこう変わります

児童手当法は、昭和六十一年に改正され、段階的に実施されていますが、昭和六十二年四月から次の点が改正となります。

○第二子分（手当額、月額二、五〇〇円）…四歳未満（昭和五十八年四月二日以降に生まれた児童）を含む十八歳未満の児童を二人養育している者

○第三子以降分（手当額、月額五、〇〇〇円(3人)、→一〇、〇〇〇円(4人)）…九歳未満（昭和五十三年四月二日以降に生まれた児童）を含む十八歳未満の児童を三人以上養育している者（支給対象は九歳未満の児童）

○第二子分、第三子以降（手当額、月額七、五〇〇円(3人)、一二、五〇〇円(4人)）→四歳未満を二人以上含む児童三人以上を養育している者。

第二子が、昭和五十八年四月二日から昭和五十九年六月一日までに生まれた児童を養育している方は、役場福祉係で次の手続きをして下さい。

○新たに受給者となる者…（認定請求）

年金加入証明書、印鑑、金融機関口座（町内の金融機関で子供名儀でないもの）のわかるものを持参すること。

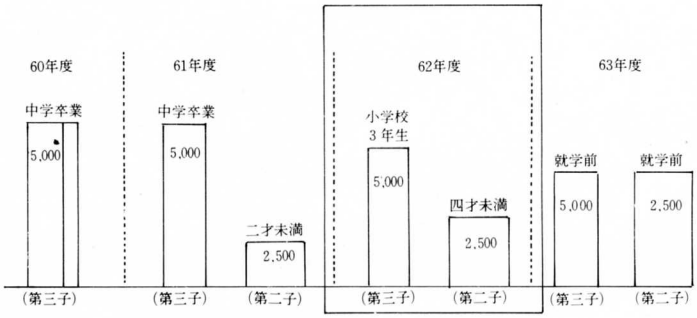
○すでに受給者である者…（額改定請求）

印鑑を持参すること。

届出は、三月九日(月)～三月二十日(金)の間に忘れずに行って下さい。四月分から支給対象となります。

所得限度もありますので児童手当制度に関して詳しくは、役場民生課福祉係（☎七五―二二一一）におたずねください。

新制度への移行措置



♡保健婦からひとこと♡

子供の味覚は親ゆずり

「虫歯になるから、甘いものばかり食べちゃダメよ！」というお母さんは多いのですが、塩っぽいものについては、案外気を使わないものですネ。

しかし、10代で高血圧症になったり、悩卒中で倒れる子供もいます。

これは、塩分のとりすぎが原因です。人間の味覚は、子供の時からの食習慣で決まるといいます。

塩辛いものが好きな家庭で育った子はどうしても味の濃いものが好きのようです。

おたくは、大丈夫ですか。

表　簡単な塩分摂取量チェック（世田谷方式）（ ）内はg

漬物類は一日どれくらい食べますか（普通量とは、きゅうりのぬか漬け½本、またはたくあん3枚ぐらいのこと）	ほとんど食べない（2）	普通量の半分ぐらい食べる（3）	普通に食べる（5）	たっぷり食べる（7）
漬物や干物にしょうゆをかけますか	かけない（2）	ときどきかける（3）	たいていかける（5）	いつもたっぷりかける（7）
みそ汁、すまし汁、スープ等をよく飲みますか	週に1～3杯飲む（2）	1日1杯ぐらい飲む（3）	1日2杯ぐらい飲む（5）	食事ごと、1日3杯以上飲む（7）
塩ザケ、塩辛、つくだ煮、梅干し等をよく食べますか	めったに食べない（2）	ときどき食べる（3）	たいてい食べる（5）	食事ごとに食べる（7）
めん類を食べるかたは汁をどうしていますか	めん類は週(n)回食べる	汁は飲まない（$\frac{2n}{7}$）	半分ぐらい飲む（$\frac{3n}{7}$）	全部飲む（$\frac{5n}{7}$）

あなたの合計 g

会長さん

しゅうとめ会

会長　遠藤満枝さん（本町三丁目）

江府町しゅうとめ会として発足、今年で二十周年を迎えました。

会員同志旅行や運動会をしたり、講演会を聞いたりして、人間として充実の時期、良きしゅうとめとして新しい理解者としての勉強や、更に老年期を迎える者としての諸問題についても話し合っています。

現在、会員一二五名、明るく楽しい家庭作りをめざして皆、頑張って活動をしています。

ぜひ、ご参加してください。

手島さんが

検察審査員（補充員）

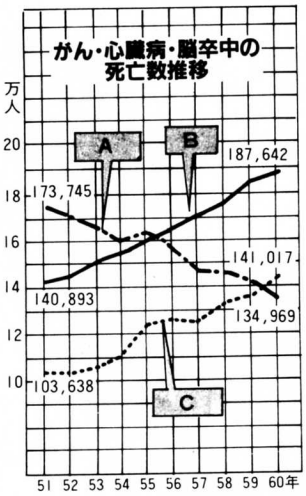
検察審査（補充員）に、手島陽子さん（江尾本町二丁目）が選ばれました。

任期は、昭和六十二年二月一日から六ヶ月間です。

検察審査会は、十一人の審査員でつくられ、検査官の不起訴処分が正しく行われたかどうかを審査するのがおもな仕事です。

♡国保健康クイズ（答は次ページ）

④ 3大成人病の死亡数推移、どのグラフがどの病気か？



ア　脳卒中
イ　がん
ウ　心臓病

㈱東京法規出版発行〝健康なるほどクイズ〟より

人の動き

1月届

□お誕生おめでとう

大河原　神庭信吾　賢一二男
佐　川　前角衣美　達也長女
柿　原　清水春樹　昭広三男
久　連　大村優樹　剛　長男

□ご結婚を祝します

大高　昌幸）東京都中野区
木谷　妙子）佐川から
新田　宏）日野郡日南町から
川上　幸恵）美用
久木　順一）下安井
廣田美枝子）米子市から
高橋　誠）米子市
清水　浩美）柿原から
本田　幸夫）佐川
窪田　厚子）群馬県新田郡から
田仲　和也）日野郡日南町
山崎　喜香）御机から

■ごめい福を祈ります

本　五　荒金　政治44歳　弘子宅
洲河崎　浦部弥四郎91歳　秀人宅
貝　田　森田あき子80歳　成人宅
下安井　徳岡　亀子82歳　卓史宅

ありがとうございました

1月中寄託分

■香典返しとして

本　五　荒金弘子殿
（ご主人政治様ご逝去）
尾上原　中尾雄三郎殿
（三男洋三郎様ご逝去）
洲河崎　浦部秀人殿
（父弥四郎様ご逝去）

□内祝として

本　一　小林　榮殿
（ご本人様退院）
久　連　生田人美殿
（ご本人様退院）
貝　田　森田哲也殿
（長男直之様退院）
日ノ詰　中尾きよ子殿
（ご本人様退院）
本　三　浜本多満子殿
（ご本人様退院）
佐　川　清水吉久殿
（ご本人様退院）
新　一　住田正人殿
（ご本人様退院）

特別寄付

江府町農業協同組合
組合長　影山一亮殿
（大売出し催しの景品寄付）

以上、社会福祉事業にご寄付いただきました。厚くお礼申し上げます。

江府町社会福祉協議会

善意銀行受払報告

1、十二月末累計額
三百九十八万八千八百五十一円
2、一月中寄付額
十七万四千八百五十円
内　訳
香典返し　五万五千円
快気祝　十一万円
特別寄付　九千八百五十円
3、一月末累計額
四百十六万三千七百一円

◇　◇　◇

緑化強調期間
（3月1日～5月31日）

国保健康クイズ　答えと解説

4	
A	ア
B	イ
C	ウ

★昭和60年の人口動態統計で、心臓病が脳卒中を抜いて、日本人の死亡原因の第2位になりました。脳卒中は、56年に第1位の座をがんに譲り渡し、さらには第2位の座を心臓病に奪われたわけです。これは、がんと心臓病が2大死因を占める欧米型にわが国も近づいたことを示しています。

★心臓病が増えている原因としては、①食生活の変化（動物性脂肪と甘いもののとりすぎ）②運動不足による心臓機能の低下③肥満にともなう心臓への負担増加④ストレスの増大などが指摘されています。

★対策としては、①野菜・魚を中心とした伝統的な日本食にもどす②1日平均の栄養摂取量2100キロカロリーを毎日運動で消費すること（15ページ参照）③ストレス解消策として、生きがいとなる趣味をもつこと、などがすすめられています。

欧米諸国の死因上位3位

順位	アメリカ（1980年）	イギリス（1982年）	フランス（1981年）	西ドイツ（1982年）
1	心臓病 324	心臓病 383	がん 235	心臓病 366
2	がん 183	がん 263	心臓病 208	がん 260
3	脳卒中 75	脳卒中 139	脳卒中 124	脳卒中 162

（単位は人口10万人当たり死亡数）

明日のため
今日を見直す居住年

IYSH·1987
国際居住年